



学校だより

令和 6 年 2 月 吉日
上越市立有田小学校
校長 野田 晃

失敗しても安心、ならば

先日、パフォーマンス大会がありました。集会委員会主催で、1年生～6年生、先生も含めて誰でも参加でき、得意なことや好きなことを発表するイベントです。今回は19組のエントリーがあり2回に分けて行われました。なわとび、けん玉、あやとり、ピアノ、パントマイム、楽器演奏、歌やダンスなどなど。学級発表、スクールバンド部や先生方による演奏もありました。体育館には大会を見ようと大勢の子どもたちが集まっていました。一人一人いろいろな特技があるのだなあと感心しました。また、友達同士や学級みんなで仲よく発表する姿は、とても微笑ましいものでした。

特にうれしかったのは、出演者が失敗しても、見ている子どもたちが温かく見守っていたことです。誰も、ひどいことを言ったり、はやし立てたりしないのです。例えば、けん玉の技が一発で決まらなくて何度もやり直す姿を見て、「がんばれ！」と体育館の至る所から応援する声が聞こえてきました。そして、上手にけん玉が大皿に乗った時、体育館中、割れんばかりの拍手と歓声が起きました。何だか、みんなが優しく温かくて。じーんとききました。演技していた子どもたちも、うれしい気持ちでいっぱいになったことと思います。

ステージで演じた子どもたちが私の横を通り過ぎるとき「すごくドキドキした」と言う声が聞こえてきました。そうでしょう。400人ぐらいの子どもたちの前で発表したのです。勇気がいることだと思います。失敗を恐れて不安で心がいっぱいだったと思います。よくステージに立ったものです。大会にエントリーしただけでも立派だと思います。

友達を一生懸命に応援していた子どもたちも素晴らしいです。失敗しても励ましたり、自分のことのように喜んだりする、そんな友達、いいですね。また、このパフォーマンス大会をみんなで盛り上げようとする気持ちも最高です。このような大舞台でチャレンジできるかどうかは、どれぐらい、こんな風に温かく受け入れてくれる人々に囲まれて育ってきたか、ではないでしょうか。

きっと、今回のパフォーマンス大会に出た子どもは、次の大会にも出たいと思ったのではないのでしょうか。または、別な大舞台で自分の得意な技や演技を見せたいと思った人もたくさんいるのではないのでしょうか。そして、見ていた子どもたちの中にも、多少失敗しても、みんなが応援してくれたり、喜んでくれたりすることを知り、来年、大会に参加したいと思った子どもも、たくさんいるのではないのでしょうか。

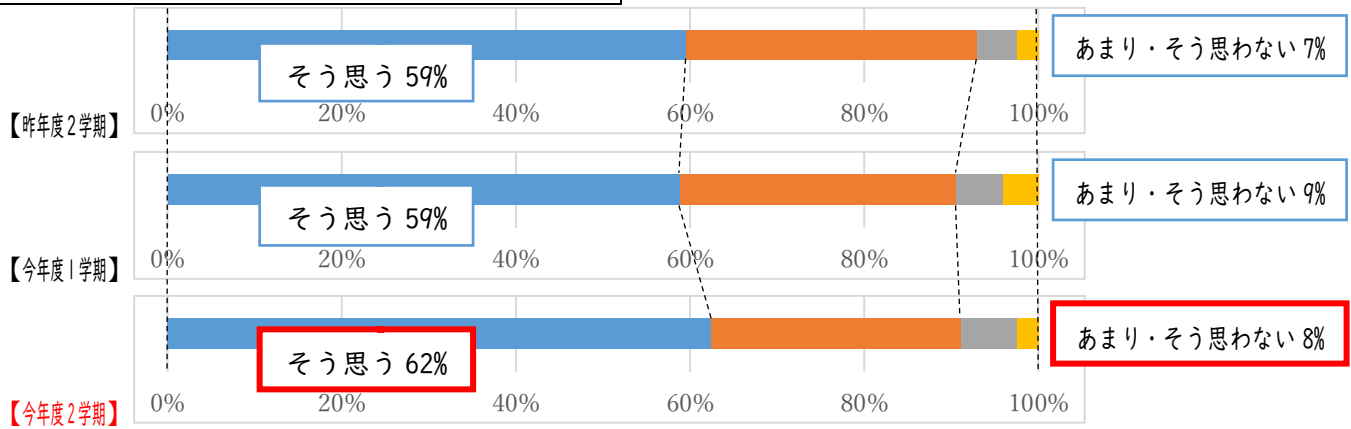
挑戦する子どもに育てたいものです。失敗を恐れない子どもに育てたいものです。また、人の失敗を許したり、温かく受け止めたり助けたりする子どもに育てたいものです。そして、失敗から学ぶ子に育てたいものです。そういう子どもが育つ学校でありたいと思います。さらに言えば、そういう社会になってほしいと心から思います。失敗を許し、お互いのよさを認め、チャレンジする勇気をくれる、そんな社会になってほしいと願っています。そういう社会を、未来を、創造していく人になっていくことを期待しています。

【学校評価・2学期の結果より】

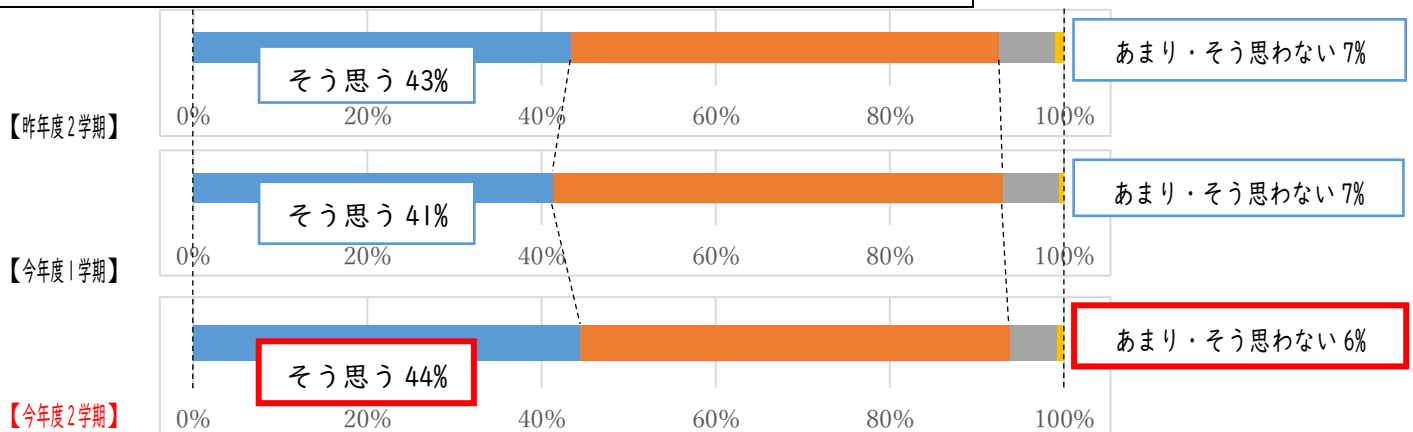


当校の教育活動に関するアンケート調査（学校評価）にご協力いただき、ありがとうございました。結果を学校運営協議会の皆様や教職員で振り返り、その受け止めや今後の方策についてお示しします。

児童：「学校に行くことは楽しい」…93%



保護者：「あなたのお子さんは、喜んで学校に行っている」…94%

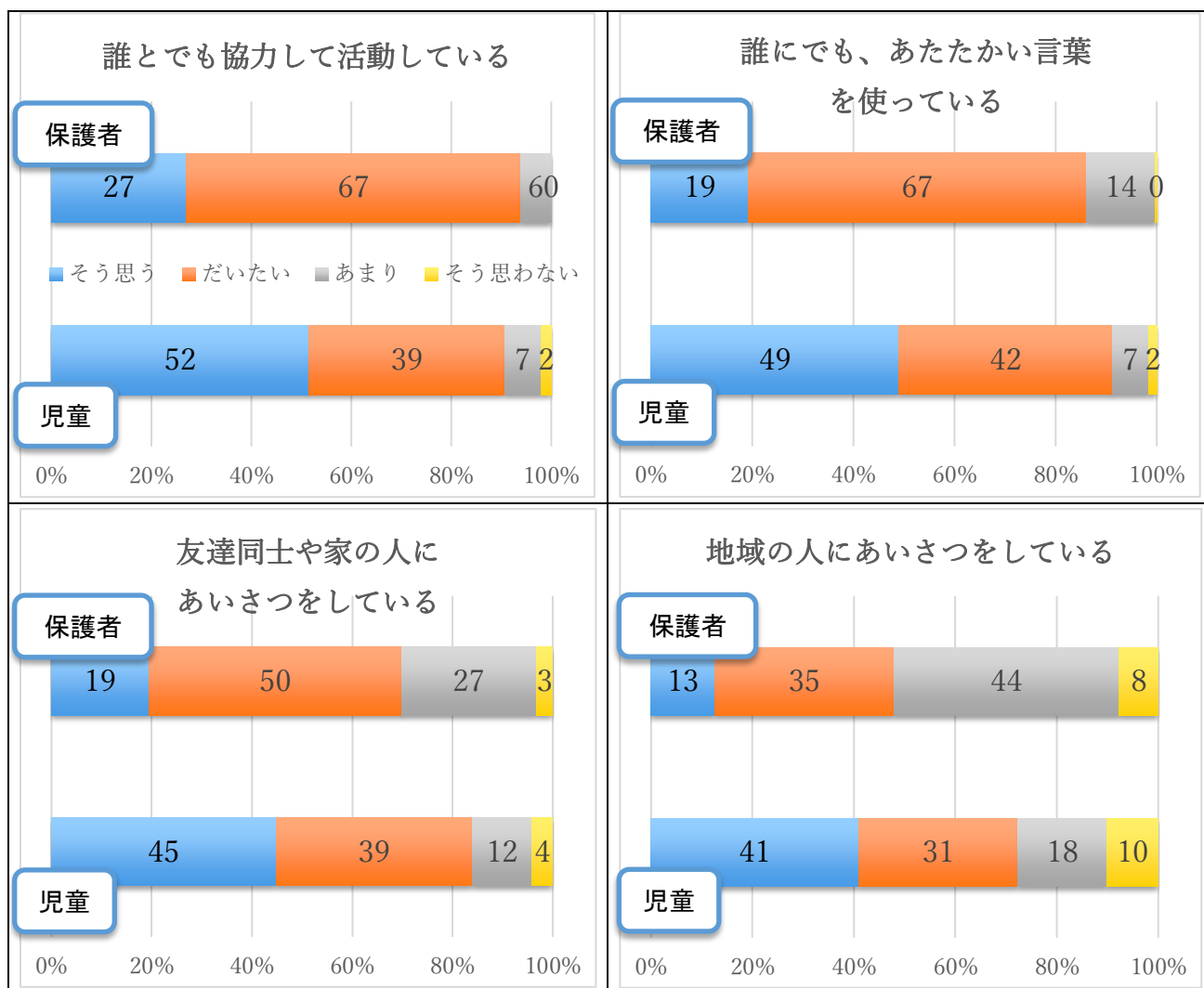


1学期末に引き続き、子どもたちからも、保護者の皆様方からも9割以上の肯定的な評価をいただきました。また、1学期末と比べ、子どもたちの「強く肯定的な評価」(3%=約18人)も増えており、嬉しく思います。でも、1割弱(約50人)の子どもたちが否定的であることに留意して、みんなが「楽しい」と言える学校づくりに引き続き取り組んで参ります。

今年度は、「豊かな人間性・社会性の育成」の切り込み口として、特に「あいさつ」や「あたたかい言葉づかい」に力を入れています。子どもたちの評価では、身近な人(友達や先生、家族)には8割、地域の方には7割の子が「あいさつをしている」としています。また、「あいさつをされているか?」との問いにも、友達、家族、地域のいずれからも8割以上の子が「されている」と受け止めており、数値では1学期からの良化傾向が明らかです。ここまでの取組に手応えを感じると共に、保護者や地域の働き掛けに感謝を申し上げます。しかし、あいさつは相手の受け止めが肝要です。自由記述には、あいさつへの物足りなさを指摘する声もあることから、さらに取組を続けていきたいと考えます。

言葉遣いなどでも、1学期に比べて周りから「温かい言葉」を掛けてもらっていると感じている子どもたちが増えている(強肯定+7.4%=約45人、肯定全体+3.5%=約21人)一方、保護者の皆様としてはやや物足りなく感じられることも分かりました。子どもたちの頑張りを校内だけとせず、家庭・地域へと広げていく手立てが必要だと感じます。子どもたちの成長が、そのまま家庭や地域にもつながることを目指していきたいと思ひます。

「様々な人とかわり相手を思いやる子」



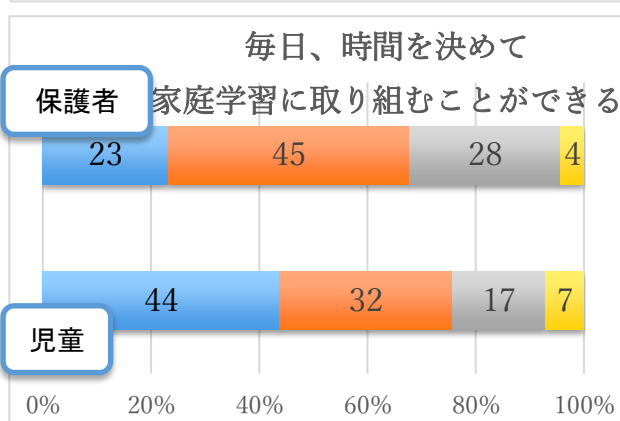
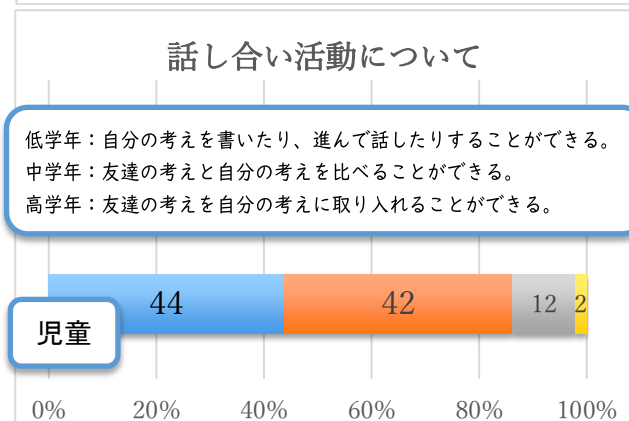
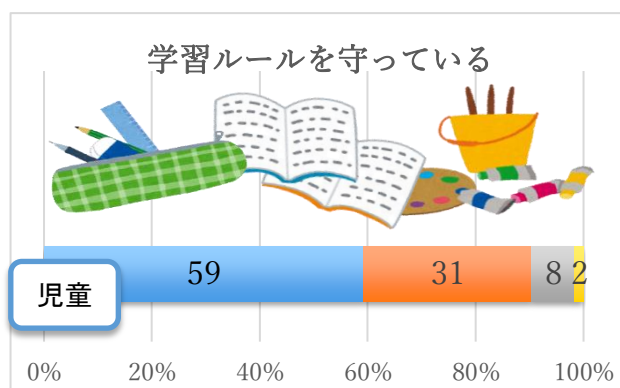
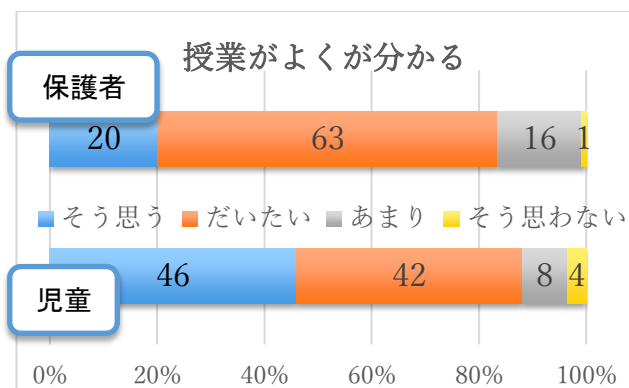
「誰とでも協力して活動している」や「誰にでも、あたたかい言葉をつかっている」の項目は、児童の肯定的評価が90%を超え、1学期よりも増えています。ペア・コミュニケーションやグループ活動、縦割り班活動などを活発に行うことで、普段かわらない子とかかわったり、互いの関係がよくなったりしたことが肯定的評価を高めたと考えています。

また、月別なかよし目標「明るいあいさつを伝え合おう」「あたたかい言葉を伝え合おう」「よいところを伝え合おう」「ありがとうを伝え合おう」の4つを1サイクルとして、繰り返し全校で「なかよし集会」を行い、その後にクラスで話し合うという形が定着し、それが効果となって表れているものと考えます。今後も継続して取り組んでいきます。

「地域の人へのあいさつ」の項目では、80%をまだ越えていません。ご家庭においても、まずは大人同士であいさつをする姿を見せていただき、子どもたちがあいさつをしたときには「よくできたね」と温かい声を掛けていただければ幸いです。



「学び合い、考えを深める子」



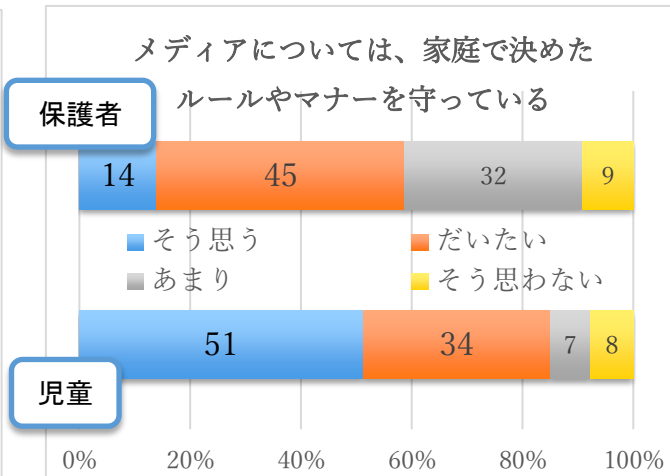
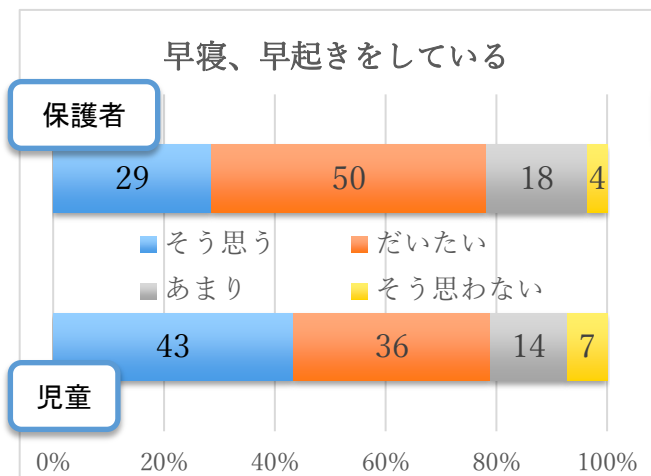
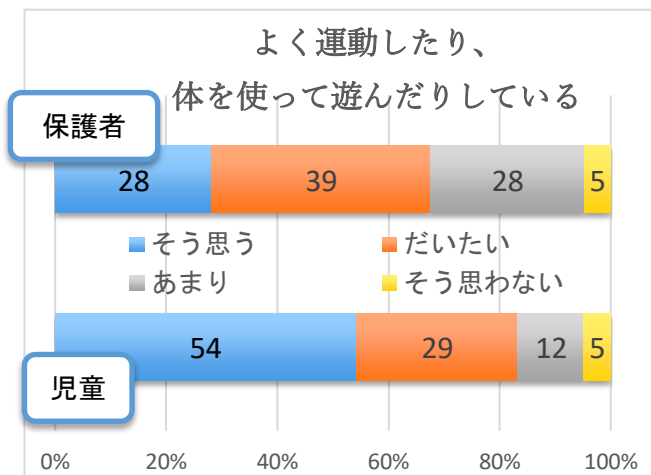
「授業がよく分かる」の項目は、88%の児童が肯定的に回答しています。活動の見通しをもたせる、教材や考えを可視化するなど、どの子も学習内容が理解できるように「学習のユニバーサルデザイン化」を意識して授業を行いました。

「話し合い活動について」では、肯定的な回答が86%でした。今年度、ペアやグループでの話し合い活動を授業でより多く取り入れるように工夫しました。また、上越教育大学の院生さんからも支援をいただきながら、上手な話し合い（ファシリテーション）についても練習しました。話し合いを通じて、お互いの考えに対する理解が深まっていると感じます。

「学習ルールを守っている」の項目は、肯定的な回答が90%でした。多くの児童が学習ルールを守ろうと意識しています。一方で、授業中の不適切な発言をしてしまう場面も時折見られます。相手が話しているときは静かに聞いて、聞いてから質問したり意見したりするなど、人の話を最後まで聞くことができるように継続して取り組みます。

「毎日時間を決めて家庭学習に取り組む」ことについては、肯定的な回答が76%でした。学年×10分間の家庭学習時間では、達成が難しい子もいました。今後、時間だけではなく、自分で計画を立てて家庭学習に取り組むことができるような方法も考えていきたいです。

「進んで運動する子」「生活習慣を身に付けている子」



「よく運動したり、体を使って遊んだりしている」の項目では、児童の肯定的評価が83%と、1学期同様に高い評価になりました。休み時間には、雪の積もったグラウンドで雪遊びに親しむ姿や、体育館でボール遊びを楽しむ姿、そしてオープンスペースで短縄跳びや大縄跳びに興じる姿が見られます。また、「マラソン大会」から「マラソンデー」へと変更し、自主性を重んじたことを受け、自分で決めたことに粘り強く取り組む姿も見られました。

「早寝早起きの習慣化」の項目では、児童の肯定的評価が80%に迫り、規律ある生活習慣が定着してきたものと考えています。加えて、毎月10日の「健康の日」には、生活習慣が定着している子どもから、校内放送で家庭での取組を紹介するなどの周知にも努めました。このような取組も生活習慣が定着している要因の一つと考えます。

「アウトメディアの取組」の項目では、児童の肯定的評価は85%でした。ご家庭におけるルールが定着してきていることがうかがえます。その一方で、保護者の皆様の肯定的評価、特に「そう思う」との結果に大きな開き（児童51%、保護者14%）があります。子どもたちのメディア利用場面を見て、「確かにルールを守れてはいるけれども、少し心配だ…」と、お考えになられているのではないかと思います。「早寝早起きの習慣化」「アウトメディアの取組」には、ご家庭の協力が不可欠です。今後も変わらぬお力添えをお願いいたします。